

PRAEVIDENTIA DAILY (11月27日)

昨日までの世界：インフレ上昇でもドル全面安

昨日は、米経済指標でコア PCE デフレーターは前年比+1.6%と前月から上昇し、インフレ率が徐々に高まっていることが示されたが、その他の経済指標の殆どが市場予想を下回ったことからドルが対主要通貨、新興国通貨で総じて軟調となった。コア耐久財受注（非国防除く航空機、-1.3%）および中古住宅販売成約件数（-1.1%）の予想外のマイナス、新規失業保険申請件数の 31.3 万人への大幅増加を筆頭に、シカゴ PMI（60.8）や新築住宅販売件数（45.8 万件）の予想比悪化、そして個人所得、支出はいずれも前月比+0.2%と微増に留まった。

こうした中で、ドル/円相場は NY 時間に一時 117.41 円へじり安となったが、引けにかけては再び 117 円台後半へ小反発して引けている。因みに米 2 年債利回りはほぼ横ばい、米株価は上昇しており、為替市場での米感謝祭休日を控えたポジション調整のドル売りという面が強かったかもしれない。

ユーロは、Constancio・ECB 副総裁が国債購入の判断は来年第 1 四半期にも可能になると述べたことから、量的緩和導入期待の高まりから欧州時間に 1.24 ドル台前半へ小幅下落したが、その後 NY 時間にかけてはむしろ反発し 1.25 ドル台を回復した。当社の目からすれば、この発言は、特に足許でユーロ圏の景況感指数に悪化一服感が出ている中で、量的緩和が目先数か月内に導入されないことを確認するもので、短期的なユーロ買戻しに繋がりが得る材料だ。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-0.2	-0.00	-0.00	+0.00	-0.00	-0.02	-0.01	+0.3	-0.1	-1.0
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロドル	+0.2	-0.01	-0.01	-0.00	-0.00	-0.02	-0.02	-0.0	+0.3	+0.05
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンドドル	+0.5	-0.02	-0.02	-0.00	-0.02	-0.03	-0.02	-0.0	+0.3	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.2	-0.04	-0.04	-0.00	-0.04	-0.06	-0.02	+0.3	+1.4	-0.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.8	+0.00	+0.00	-0.00	-0.04	-0.05	-0.02	+0.3	+1.4	-0.1
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.1	+0.02	-0.00	-0.02	-0.00	-0.02	-0.01	+0.3	-0.5	-0.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：デイスインフレ服でユーロ買戻しリスク

きょうの注目通貨：EUR↑

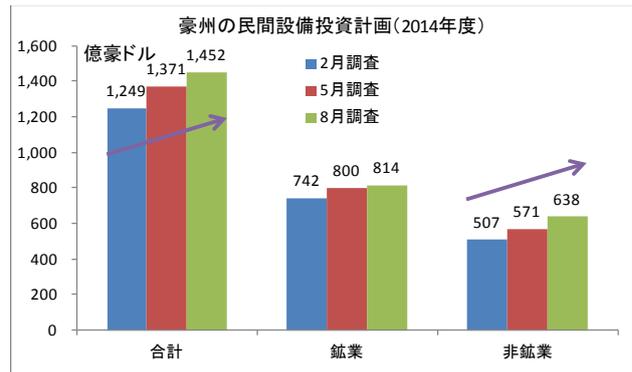
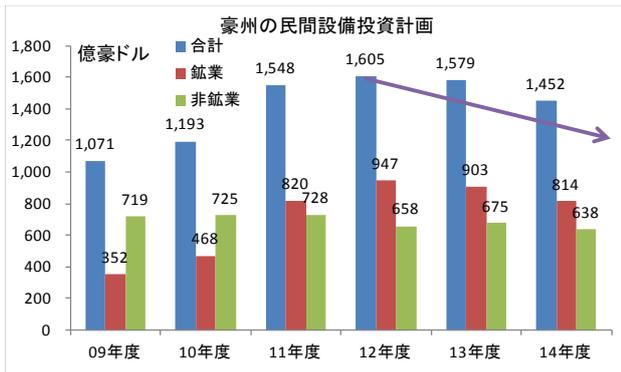
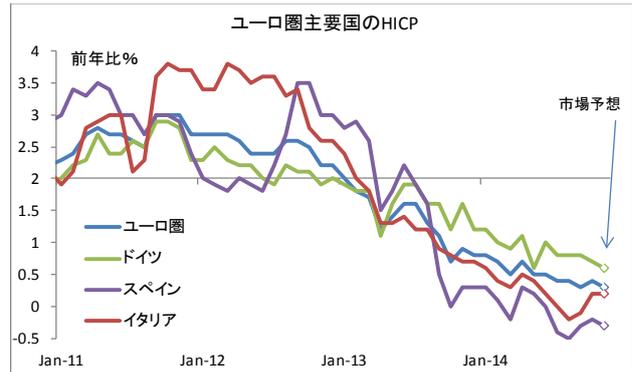
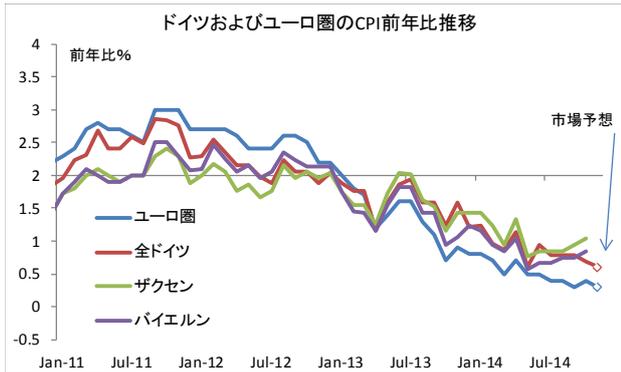
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ10 月貿易収支・NZ ドル	6 : 45	-13.5 億		実績-9.1 億
豪 3Q 資本支出・前期比	9 : 30	+1.1%	-1.5%	
スペイン 11 月 HICP 前年比	17 : 00	-0.2%	-0.3%	
ドイツ 11 月失業者数	17 : 55	-2.2 万人	-4 千人	
ドイツ 11 月 HICP 前年比	22 : 00	+0.7%	+0.6%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米感謝祭休場で米国関連材料が少なく、米国時間は動きが鈍くなる可能性が高いため、ユーロ圏のインフレ統計に注目が集まりそうだ。この点、スペイン分は前年比マイナス幅が拡大、ドイツ分も再びインフレ率

が低下する予想となっている。もっとも、ドイツの各州分やユーロ圏主要国分をみると、一方向にディスインフレが進行するというよりは、まちまちな状況となっており、全体として低下が一服している（下図を参照）。こうしたディスインフレが一服されると、景況感指数の悪化一服と相俟って、早期の量的緩和導入期待が後退し、ユーロが買い戻されるリスクがあるだろう。

豪州では3Q民間設備投資（CAPEX）計数が発表される。中でも注目されるのは2014-15年度（14年7月～15年6月）の設備投資計画で、毎年2月の段階で最初の計画が発表され、通常は毎四半期の調査で上方修正される傾向があり、今回も上方修正の可能性がある（下図の右）。特に、今回の上方修正によって非鉱業セクター（総合計から鉱業を除いたもの）の投資が前年比プラスに転じる可能性があり、その場合は豪ドル反発に繋がるリスクがあり注目される。但し、全体として2012年のピークアウト以降の減少傾向は変わらないとみられ、目先のRBA利上げ期待には繋がらないだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641